

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト 実施報告書

報告日	平成31年2月7日(木)
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校
PTA会長名	目崎 由美

実施概要	実施活動名	ふとくまつり
	実施日時	平成30年9月15日(土) 10:30~13:00
	実施場所	宮城教育大学附属特別支援学校 体育館
	実施目的	本校児童生徒が一般の方と直接かかわりをもつことができる「ふとくまつり」で、販売や接客を通して触れ合ったり、活動の様子を見てもらったりすることにより、特別支援学校に通う子供たちへの理解・啓発を促し、インクルーシブな共生社会の重要性を感じてもらうことを目的とする。また、大学生及び附属中学校生徒にボランティア参加してもらい、交流を通して、同じ社会に生きる人として互いに正しく理解し、共に助け合い、支え合っていくことの大切さを学ぶ機会とする。
	実施内容	生徒が作業学習で製作した製品の販売・接客を通して、来校者と交流した。喫茶コーナーでも企画から運営、接客までを行った。出店された各コーナーでの買い物やゲームブースで、来校者や学生ボランティアと交流した。また、特別企画としてメインエントランス付近で『ぼくたち、わたしたちが見ている世界の写真展』を開催した。
実施方法	学校PR動画を見ることのできるQRコードを入れたポスター、チラシを作成し、仙台圏全ての小中学校、市内主要施設、支援機関、地下鉄などに配布、掲示した。ホームページから「ふとくまつりの案内」のページに行けるようにリンクを作成した。附属幼稚園、附属中学校との交流の際に、児童生徒が自らちらしを渡し、ふとくまつりに来てもらえるようPRした。また、地元の新聞に紹介記事を掲載してもらい、広くPRした。ふとくまつり全体の準備は保護者が担い、当日は学生ボランティアの協力を得た。	
参加人数	479名	

報告事項	内容	<ul style="list-style-type: none"> ○「ぼくたち、わたしたちが見ている世界の写真展」を企画し、児童生徒の目線で撮影した写真にタイトル・コメントを付けて展示した。来場者に、撮影者に向けたメッセージを自由に写真に貼り付けてもらった。 ○PTAを中心にバザーブース、ゲームブースを担当し、企画・運営を行った。(附属中学ボランティアに参加してもらった)また、保護者の有志によるクワガタ販売を行った。中学部、高等部の生徒による作業学習で製作した製品を販売するコーナーを設置した。 ○高等部の総合サービス班の生徒が企画・運営する喫茶コーナーを行った。 ○福祉作業所の選定は卒業生の就労先を主に選び、体育館内に6事業所、屋外に移動販売車(カレー)1台の合計7店の出店があった。 ○校長先生コーナーとして、わたあめ、ポップコーン、アイスクリームの販売を行った。(大学生ボランティアに参加してもらった)
	結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター掲示やチラシ配布、新聞掲載などの効果により、当日はオープン前からメインエントランス前で待っている来校者が多数見受けられ、来場者数は過去最高の479名という大盛会となった。 ・生徒の製作品やバザーブースも好評で、ほとんどが早い時間に完売となった。 ・福祉作業所の出品はパンやお弁当、カレー、お菓子、生花、雑貨などとバラエティに富み、大変好評を得た。 ・子供コーナーは魅力的な景品が多く、子供たちがとても楽しく遊んでいた。 ・特別企画「ぼくたち、わたしたちが見ている世界の写真展」では、子供たちが普段見ている世界観を大勢の方々に感じてもらい、大変好評を得た。ふとくまつり1日だけの展示では惜しいという声が多く、ふとくまつり後に校内展示を行った。また、外部のカフェギャラリーで写真展を開催した。カフェギャラリーでの写真展は、来場した一般の方からも大好評を得て、温かいメッセージがたくさん寄せられた。さらに、「ぼくたち、わたしたちが見ている世界の写真展」は地元新聞紙面にも大きく取り上げられ、特別支援学校に通う子供たちへの理解・啓発に大いに役立った。その後、附属小学校からの依頼を受け附属小学校作品展でも展示したところ高い評価を得、附属小学校公開研究会での再展示をさらに依頼された。その後も、外部イベントに作品を展示してほしいという依頼があり、検討しているところである。ふとくまつりの特別企画として開催した写真展ではあるが、プレゼンスがある企画となった。

	所感	<ul style="list-style-type: none">・過去最多数の来校者で非常ににぎわい、大いに盛り上がったと思う。・本校児童生徒にとって、多くのお客様や、ボランティアと交流するいい機会となった。・チラシのうら面に会場内の案内図を入れたところ、分かりやすいと来校者に喜ばれた。・ふとくまつり内での写真展の大成功を受け、もっと多くの人に見てもらってはという声が多く聞かれ、いろいろな場所での展示が行われた。それにより、障がいのある子供たちの見ている独特な世界観をたくさんの人にも感じてもらえたと思う。写真のタイトルやコメントなどからシチュエーションを想像してもらい、それについてのメッセージを貼り付けてもらったことで、見ている人が撮影者の世界に入り込んでいるようにも感じられた。
--	----	---

添付書類	写真 (別紙)
------	------------

平成30年度宮城教育大学附属特別支援学校『ふとくまつり』の様子



平成30年度宮城教育大学附属特別支援学校『ふとくまつり』
「ぼくたち、わたしたちが見ている世界の写真展」(本校体育館)



カフェギャラリーでの写真展



カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成31年2月7日(木)
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校
学年	中学部2年, 高等部1年

【本校児童生徒の感想】

<中学部2年 男子生徒>

お客さんがたくさん来て接客が大変だったけど、みんなで作ったネコのお皿が完売してうれしかったです。

<高等部1年 女子生徒>

ふとくまつりに向けて、毎日練習しました。

9月15日の本番は、きんちょうしたけど、ホールの仕事をがんばりました。お客さんに喜んでもらえることが楽しかったです。子供コーナーに何度も飲み物をはこびました。こぼさず持っていくよう気を付けました。

成こうで終わり満足でした。

【ボランティア参加者の感想】

<宮教大4年 Sさん>

今年初めてふとくまつりのボランティアに参加しました。教育実習でお世話になっていた際に先生方からお話をいただいたこと、生徒の皆さんから「来てほしい」とお願いされたことが参加の理由です。

当日は「子供コーナー」のパズル担当を行いました。三種類のパズルを用意し、参加する子供たちに説明やわからないときのヒント役です。生徒の皆さんには校長・副校長先生のパズルが、一般参加の子供たちにはちびまる子ちゃんのパズルが人気だったようです。「ああでもないこうでもない」とパズルに取り組む子供たちの目は真剣そのもの。パズルが完成すると大喜びです。逆に「簡単だよ」という子供には時間制限をつけるなど工夫もしました。制約があることで子供もやる気が出た様子。「30秒でやるからね!」「惜しい!三十二秒だ!」

単純に自分自身が楽しむことができ、子供たちのやる気や笑顔を感じることができました。教員を目指すこれからの自分に生かしたいと思います。

<附属中学校 Mさん>

私はボランティアに参加して気付いたことは二つあります。一つ目は、笑顔はみんなすてきということです。私は自分の名前を書いた名札をして皆さんにアイスクリームを売っていました。すると小学一年生くらいの一人の小さな男の子がアイスクリームを買った後「はるか先生、ありがとう。」と満面の笑みで私に言ってくれました。私はいつも一緒にいるような子ではなかったからこそとてもうれしく感じました。

二つ目は、相手のことを考えて行動することは大事なことということです。普段はあらためて考えることが少ないですが、自分の将来にも役に立ちます。

このようにボランティアはたくさんのことを学ぶことができるととても良い機会だと感じる事ができました。

<慶應大学2年 Mさん>

私はふとくまつりにボランティアとして参加し、たくさんの子供たちと触れ合いました。

ふとくまつりが始まる前は、子供たちに受け入れてもらえるのかという不安も感じていましたが、特別支援学校の素直な子供たちは、私たちボランティアの販売するアイス大喜びで選び、目の前で作るカラフルな綿あめに「お姉さん、凄い!」と、感動の声を上げてくれました。また、子供たち自身も、担当しているコーナーで一生懸命接客をしていました。

真っすぐな心で私たちに向き合ってくれる特別支援学校の子供たちと一緒に楽しい時間を過ごすことができ、とても良い経験となりました。

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成31年2月7日(木)
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校

<全体について>

・当日は途中土砂降りの雨が降る荒天となりましたが、過去最高となる479名の来場者数となりました。PR動画サイトを作成し、ポスター、チラシに動画サイトのQRコードを掲載し、支援機関や仙台圏の小・中学校などに配布しました。
また、附属幼稚園、附属中学校との交流の際に、児童・生徒が自らちらしを渡し、ふとくまつりに来てもらえるようPRしました。

学校ホームページのトップページからPTA「ふとくまつりの案内」のページにいけるようリンクを作成し、より多くの方に認識していただけるようにしました。これらの広報活動の成果が反映されているように感じました。

- ・昨年に引き続き、校長先生企画のポップコーン・わたあめ販売は好評でした。今年はアイスも販売し、何を買うか選ぶ楽しみがありました。大盛況でしたが、整理券を配布することにより、混乱もなく商品を提供することができました。
- ・宮教大、他大学のボランティア、附属中学校が、学校などの垣根を超えて協力し合い、そこに保護者も加わり、全体の一体感が得られた気がしました。

<作業所について>

- ・7か所の障害者作業所に出店していただき、どのような仕事をしているのかを実際に見ることで、将来の就労イメージをもつことができました。先輩方の働いている姿を見てとても励みになりました。
- ・体育館の外に移動販売車で来校いただき、カレー販売をしていただきました。外に休憩コーナーも設けたので、とても和やかな場となっていました。
- ・各作業所の出店品が多岐にわたり、販売している商品の説明を受ながら、楽しく購入している様子が見られました。

<提供品・お気持ちコーナーについて>

- ・お父さん方の協力で、「くわがたコーナー」を設置し、格安で販売しました。くわがたに詳しいお父さんの説明を受けながら購入している子供たちの姿がとてもうれしそうでした。
- ・手作りのポスターやレイアウトなどを工夫し、ほとんどの物が完売となりました。楽しく販売することができて良かったです。
- ・附属中学校ボランティアさんが元気よく呼び込みをしてくれて、活気があって良かったです。
- ・数十円から買える商品などがあり、お小遣いの少ない小学部の児童たちも買物の経験をすることができ良かったです。

<喫茶コーナーについて>

- ・喫茶コーナーの仕入れから販売まで高等部に全面的にお任せしました。注文から会計までこなし、学習の成果が十分発揮される機会となりました。生徒たちが緊張しながらも、とても丁寧に接客を行っている姿勢が印象的でした。頑張っている姿を見て、とても感動しました。
- ・休憩コーナーを多数配置し、ゆっくり休める場所となり、お客さまが楽しく談笑される姿でとても賑わっていました。テーブルをおしゃれにセッティングするなど工夫していたのが良かったです。
- ・普段は生徒が接客している様子を見る機会が少ないため、保護者みんなが温かく見守り、立派に接客する姿を見て成長を共に喜ぶ様子が見られました。

<子供コーナーについて>

- ・ゲームや飾り付けなどは手作りで、とても楽しい雰囲気になり、子供だけではなく、大人もワクワクするような感じに仕上がりました。
- ・各コーナーの大学生・附属中ボランティアさんの協力もあり、とても盛り上がり終始賑やかで楽しい空間になっていました。
- ・外部からのお子さんも多数訪れ、ゲームなどを楽しめたようです。ゲームが楽しく、2回遊びにきてくれたお子さんも何人もいました。
- ・子供たちが楽しく遊んでいる姿を見て、がんばって準備をして良かったなど、とてもうれしくなりました。

<「ぼくたち、わたしたちが見ている世界の写真展」について>

- ・子供たち自ら撮影した写真をタイトルとコメントと共に展示し唯一無二の写真展になりました。作品を通して一人一人の個性や親子の思いを感じていただけたと思います。
- ・来場者にメッセージを貼ってもらうことにより、来場者参加型の写真展となりました。子供たちの気持ちを来場者に感じ取って

もらえてうれしかったです。

- ・どの写真も子供たちから見た素直な気持ちが表れていて良かったです。また、わたしたち保護者も改めて子供たちの気持ちを感じることができました。
- ・準備は大変でしたが、みんなの思い出に残る写真展になり、開催することができて本当に良かったです。
- ・ふとくまつり特別企画での写真展の開催だったのですが、とても好評で、ふとくまつり以外でも皆さんに見ていただきたいという声が多数有り、校舎内に展示後、カフェギャラリー「FIKA cafe・art」でも展示を行いました。